

# AQUA

一般社団法人BMW技術協会 機関紙

3月号 2025 MARCH

No.388

写真：レチョン・バボイ（子豚の丸焼き）

## フィリピン・ネグロス視察ツアー報告 若手を中心に10名がネグロス島を訪問しました



カネシゲファームにて集合写真



朝からインパウンドの観光客で賑わう免税店



パコロドにて大橋成子さんと合流

2月17日（月）から21日（金）、フィリピン・ネグロス島にて、視察ツアーを開催しました。参加者は、米沢郷牧場グループ（山形）、サンシャイン（福島）、村上園（静岡）、生活クラブ関西（大阪）、三美産業（岡山）、綾豚会（宮崎）から若手を中心に8名、伊藤幸感理事長、事務局の秋山を合わせて総勢10名でのツアーとなりました。

また、現地での通訳とアテンドは大橋成子さん（グリーンコープ 共同体顧問）、野川未央さん（APLA事務局長・BMW技術協会 全国理事）にお願いをし、宿泊や移動手段の手配などは現地法人のATP（オルター・トレード・フィリピン社）に協力していただきました。

2月16日（日）  
17日の出発が朝早いいため、前日に成田に集合しました。翌日からツアーを控え、決起集会が行なわれました。初めて会う人同士もいたので自己紹介から始まりましたが、1時間を過ぎないうちに、もう何年も一緒に過ごしているかのように打ち解けていました。バランスの良い微生物群といったところでしょうか。

2月17日（月）  
朝6時半にホテルを出発し成田空港へ。成田空港でチェックインと出国手続きを終えて、フードコートにて朝食を取ることにしました。ところが食事の価格に一同驚愕。これがインパウンド効果（対策？）なのか、殆どが2000円を超えるものばかり、コーヒーが1杯800円程度、それでも一番安価の「かけそば」が1杯800円、おろし蕎麦が1400円。フードコートでこの値段とは、日本人は外のコンビニでカップラーメンを啜るしかないねと一同苦笑いでした。



伊藤理事長とレイ氏(右)



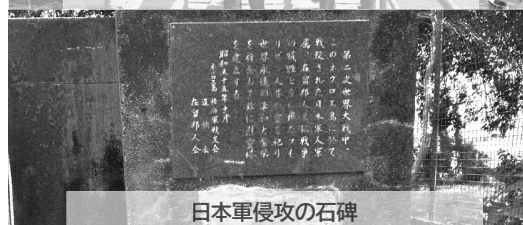
交流会で話しをするノルマ氏(中央)



ATPIにて集合写真



マングローブの森にて



日本軍侵攻の石碑



市場に並ぶ魚



バコロド名物・チキンBBQ

は時間がかかります。マニラにはオンタイムで到着し国内線ターミナルへ移動、ネグロス島のシライ・バコロド空港行きの国内線へ乗り継ぎです。なんと、ここで国内線が約2時間遅延すること。アジアの国内線ではよくあることですが、ツアー初日でもあるのでこれ以上の遅延がないことを祈るばかりです。

結局、マニラ空港で待つこと4時間、予定より約1時間半の遅れで搭乗が始まり、シライ・バコロド空港に着いたのは予定より1時間40分遅れ、辺りは暗くなっていました。空港から送迎バンに乗りバコロド市内へと移動、成田のホテルを出てから約13時間、ようやく第一目的のホテルへ到着しました。

ここで大橋成子さんと合流し遅い夕食となりました。いつも明るく元気な大橋さんからネグロス島について話しを伺い、長旅で疲れがはじめていた参加者の

皆さんは元気をもらいました。ちなみに夕食は到着が遅くなってしまったため、予定していたレストランが閉店となり、宿泊先ホテル近くにありバコロド市内でも高級と言われるホテルのレストランでとりました。マニラ空港で換金した時にも感じた円の弱さをここでも痛感、日本の同クラスのホテルと比較すると高くはないですが、5〜10年前の状況とは違って変わり、円安を含めた物価高の上昇に驚かされます。

○2月18日(火)

心なしか涼しくて過ごしやすい朝を迎え、この日はバコロド市内にあるATPI(オルター・トレード・フィリピン社)を訪問し、交流会として民衆交易についての取り組みや歴史などについて学びました。ATPIでは会長のノルマ・ムルガ氏(以後、ノルマ氏)と社長のレイモンド・テレフランシア氏

(以後、レイ氏)に出迎えられ、交流会は同社の会議室で行なわれました。ATPIからは8名の参加がありました。

はじめに伊藤理事長から訪問の挨拶と今回のツアーの目的について説明があり、ノルマ氏、レイ氏より歓迎の挨拶が行なわれました。BMW技術協会が公式にATPIを訪問するのは初めてのことで、ノルマ氏はようやくこの時が来て嬉しいと話されました。

続けて、交流会はノルマ氏よりATPI社の取り組みや歴史について、続けて大橋成子さんからネグロスと日本との関わりについてスライドを交えて聞かせていただきました。参加者の中には民衆交易を初めて知った人もいて、ネグロスの過酷な状況からこれまで30年以上の歴史を知り、驚いていました。

交流会の後はシライ市に移動し、マングローブの森にあるレストランで昼食を取りました。昼食後は、シライ市

の歴史資料館、第2次世界大戦下の日本軍の侵攻地(記念碑)を見学してバコロド市内に戻りました。バコロド市内では、露店が並び昔ながらの市場とショッピングモールの対象的な商業施設を見学しました。日本では大規模なショッピングモールができる駅前などの商店街が廃れてしまう光景をよく見かけますが、バコロドではショッピングモールがいくつもできようが、市場は廃れることなく元気で活気に溢れていました。夕食はバコロド名物のバコロドチキン(チキンBBQ)です。味は日本の焼鳥に似ていて、鶏の味もしっかりと、とても美味しい逸品です。食事は美味しくおいしいですが、食事代よりアルコール代が高つくさうなのは、気のせいということにして、ツアーはまだまだ続きます。次号へと続く・・・。

(報告 BMW 技術協会 秋山澄元)

## ◎BMW技術学習会開催 グリーンコープ生協おおさか／グリーンコープ生協おいた

1月にグリーンコープ生協おおさか、グリーンコープ生協おいたで組合員を対象としたBMW技術学習会が開催されました。講師はBMW技術協会の秋山澄兄事務局長、そしてグリーンコープBMW事務局の宮崎と秦が同席しました。

いずれもBMW技術の基礎、畜産、耕種農業、堆肥作りなどでのBMW技術の活用事例、そしてメインの「暮らしの中でのBMW技術の活用」をBMW技術協会の事務所や秋山事務局長の自宅での実例を織り交ぜながら説明いただき、グリーンコープで販売しているBMW商品（BMそら、BM菌体、BM有機堆肥など）の説明や使い方などをお話いただきました。

(1) グリーンコープ生協おおさかでのBMW技術学習会（1月24日（金））

会場は大阪府茨木市の茨木市文化・子育て複合施設おにクルで、組合員、事務局、職員含め18名が参加されました。

秋山澄兄事務局長からのお話の後、参加者へ学習会前にお届けしていたBMそらをどのように使ってみたのかをお聞きしました。

Q：プランターで栽培しているラベンダーの水やりに使ったら元気になりました。

Q：トイレに使ってみました。質問ですが、インコの飲み水に使ってもいいですか。

A：是非使ってみてください。養鶏場で飲水改善として活用されています。500〜1000倍に希釈しています。実績があるので大丈夫です。是非使ってみてください。

Q：自家製で堆肥を作っています。土のう袋に土、残渣、米ぬかを入れて、臭い対策として他社の商品とBMそらを比較してみました。すると、BMそらを使った方が臭いがましかったです。

Q：私の話ではないのですが、知り合いにBMそらを使っている人がいました。その人は柔軟剤の匂いが嫌いなので、柔軟剤代わりに使っているそうです。そうすると洗剤の匂いも和らぐそうです。柔軟剤を入れるタイミングで入れているそうです。

Q：色々使ってみました。臭いに関することはとても効果を感じました。ただ、水槽に入れたら苔が発生しました。多分入れすぎたのですね。

学習会後に参加者からアンケートをいただきましたので、一部を紹介させていただきます。

・BMW技術のビジョンが素晴らしい

と思いました。地球に優しく、使用時に人に害がなく、嫌なにおいやぬめりなどにも効果的で、水槽の水を何年もかえなくていいぐらい、嫌なにおいやバイ菌を抑えられるのも本当に驚きました。今まで全く知らなかったもので、今回知ることができて良かったです。

・菌を除菌するものとか考えてなかったのですが、自分の菌をいのように、上手く育てていきたいと思いました。奥深いお話が聞けて大変勉強になりました。

・チラシで見るだけだと、ゆっくり読む時間も無く結局注文もしなくて何かわからないってなってしまうけど、学習会では深掘りして話を聞けるし、わからない事は、その場で聞けて解決出来てプラスでしかないですね。



グリーンコープ生協おおさかの学習会

・実家でお米や野菜を作っていて、最近菌ちゃん農業の農法に興味があり、菌に注目していました。今までカタログにのっているのは知っていましたが、使い方がわからず注文していませんでしたので次回注文して活用したいです。

(2) グリーンコープ生協おいたでのBMW技術学習会（1月28日（火））

会場は大分市にあるグリーンコープ生協おいた本部の会議室で、会場参加とオンライン参加のハイブリッドで開催されました。会場参加は、組合員、事務局含め33名、オンラインは22名と多くの方が参加されました。また、大分市では家庭での生ごみ処理に対する助成が厚く、生ごみ処理容器の種類や使い方などを説明されるため、大分市環境部ごみ減量推進課の方も講師として参加されました。

学習会では以下のような質疑応答がありました。

Q：洗剤の臭いを抑えるとカタログに書いていますが、実際の使い方を教えてください。あと洗浄効果はありますか。

A：洗浄効果はありません。柔軟剤の注ぎ口にBMそらを入れると臭いを抑えられます。洗剤によっても効果は違うと思います。

Q：家に合併浄化槽があります。BMそらを使ったらどの位きれいになりますか。



グリーンコープ生協おおいたの学習会

ことができますか。

A：定期的に汚泥をバキュームカー等で引き抜いていると思います。BMW そらを使うと汚泥の量を抑えられますので、汚泥の量が減る、もしくは引き抜く回数が減ると思います。

学習会後に参加者からアンケートをいただきましたので、一部を紹介させていただきます。

・BMW技術は地球の成り立ちと同じで本当に素晴らしい技術だと実感しました。使用方法もたくさん教えていただき、家庭でも取り入れていきたいと思う学習会でした。BMW技術が世界に広がっているのも嬉しく感じました。  
・自然環境を見本にしたBMW技術の仕組みがよくわかりました。これまで長きに渡り自らの経験を惜しみなく伝

え広めてくれたことに感謝します。自然の摂理に習うのが一番なのだと感じる学習会でした。以前から興味があるものの取り掛かることのできていない生ごみの処理やBMWそらの使用に取り掛かってみようと思いました。

・正直初めて聞く言葉で、今日はどんな話なんだろう？から始まりましたが、自然循環、良い水を作る事で、生き物の農業、環境、暮らしがバランス良くなる事にとっても興味を持ちました。うちは、匂いにとっても敏感な家族で、市販のものを使っていますが、臭いが消えなく悩んでいましたがBMWそらがあると聞き、早速使ってみようと思いました。

・水の大切さ自然のありがたさ、自分たちが食材を選ぶ事も全てつながっていると思えば、できることはたくさんあるなと思いました。

・お話が興味深く、また面白くて聴き入ってしまった。特定の菌を使うのではなく、今ある菌をバランスよく活性化するもので、その土地の菌を使うので環境にも優しい。理念と技術は両輪という考え方がとてもいい。自然の理にかなった技術を使い水を守り、土を作って人を育ててその土地を地域を良くしていくという考え方がとてもグリーンコープらしい。土の成り立ちとかもっと詳しくお話を聞きたかった。

(グリーンコープBMW事務局 秦武士)

### 第33回BMW技術全国交流会 第6回実行委員会 開催報告

2月10日(月)、昨年11月に開催された第33回BMW技術全国交流会の締めくくりとなる第6回実行委員会が、秋田県小坂町のポークランドグループ事務所にて開催されました。

当日は、ポークランドグループから5名、常盤村養鶏農業協同組合から1名、BMW技術協会事務局から2名、そしてオンラインにて生活協同組合ありコープみやぎ、みやぎBMW技術協会、パール・ミート、BMW技術協会・伊藤幸蔵理事長の合計12名が参加しました。

今回の実行委員会では締めくくりとして、大会の振り返りと会計報告が行われ、今後の大会に向けての改善点や活かせる点などを、参加者それぞれの感想を交えながら話し合いました。

参加者からは、実行委員として運営側で大会に参加することで、「農業の楽しさをあらためて感じる事ができた」、「地元の地域でも実践していきたい」、「地球の事や地元のこと、色々学びなおす貴重な機会となった」といった感想が寄せられました。

最後に実行委員長の豊下勝彦氏(ポークランドグループ代表/BMW技術協会常任理事)から、「近年、地方で200人規模が集まって会議・宿泊できる会場を見つるのが難しくなってきた。現状はありながら、やはりBMW技術らしく産地に近い地方で直接顔を合わせ集まることの意義を感じた大会だった。あらためて協力いただいた皆様に感謝したい。」とのまとめの挨拶がありました。

東京以外の地方でのBMW技術全国交流会の開催は、2018年以来の開催で

した。今年の11月に開催を予定している第34回BMW技術全国交流会は、茨城県での開催が決定しており、今回の実行委員会でも出された意見は、第34回の実行委員へも引き継がれる予定です。

(報告：BMW技術協会 遠藤尚志)



ポークランドグループでの実行委員会



オンライン参加の実行委員

# 『BMの人々』

## ポークランドグループ代表 豊下勝彦さん

とよしたかつこ



たことをきっかけに、養豚

業とBMW技術に出会い、  
紆余曲折を経て現在のポークランドグループの代表になられました。今回のBMWの人々では、豊下さんの高校卒業後からポークランドグループ設立に至るまでのお話しを中心に伺いました。

「色々伺いたいことがありますが、今回は高校卒業ぐらいの頃からお話しを聞かせてください。」

高校では野球部の所属でした。監督が法政大学の野球部出身で、今で言う「昭和」の部活動だったので地獄でした。もちろん水も一滴も飲めず、ひたすら練習の日でした。休みは正月の2日と3日だけでした。

高校卒業後に就職されたのです。高校を出て、東急観光（大館営業所）に入社しました。高校2年生の修学旅行の時、添乗員が東急観光の方で、秋田商業の野球部出身の方で甲子園にも行ったことのある人でした。名前は知っていたので仲良くしてもらい、この仕事もいいなと思って選択肢のひとつに

なりました。他にも国鉄（現在のJR）

か地元のDOWAグループ（小坂鉱山跡にある製錬工場）が候補でしたが、国鉄はコネがないと入社できず、DOWAは野球部に誘われていたのですが、野球はもういいかなと思って、東急観光にしました。入社試験は渋谷公会堂で研修も渋谷で受けました。

「東急観光ではどのような仕事をさせていましたか。」

営業と添乗員をやっていました。地元の学校や会社の修学旅行や社員旅行などの添乗が主で、年間100日以上が出張でした。学校は10校以上受け持っていました。

「修学旅行はやはり京都が多かったですか。」

中学生は東京、高校生はほとんど京都でした。清水寺では生徒全員分の入場券を買うために、急坂を何度も駆け上がったたり、記念写真を地元のカメラマンに頼んで現物（酒）でもらったバツクマージンを先生方にお裾分けしたりしました。

「参加している生徒には全くわからない世界ですね。」

他にも裏話というか、色々あります。先生方に対しては、来年もお願いできるように色々やり繰りをして接

待（営業）していました。奈良の有名な包丁屋さんに事前に先生方の名前を送って彫ってもらい、現地でお土産ですと一言渡したこともありです。

「学校相手とは言え、先生への営業が大事なのですね。その後JAに転職したのはどうしてですか。」

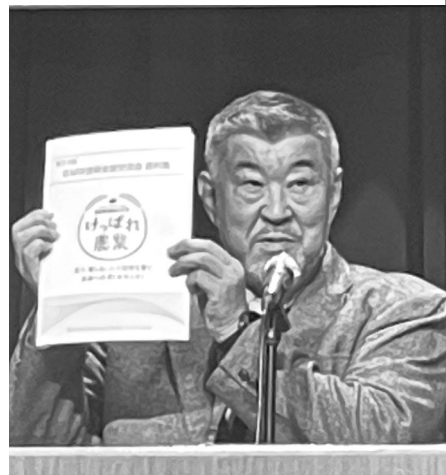
妻の父が農協の理事と知り合いで、農協で人を募集しているからと、出張の多い私を心配してか農協の試験を勧められました。農協の試験当日は修学旅行の添乗帰りで、夜行列車で朝帰ってからそのまま受けに行きました。作文の試験があったのですが、お題目が「これからの農協はどうしていけばいいか」というものでした。ちょうどこの修学旅行で東京の晴海でコンピューター系の展示会に行き、展示会で受けた影響をそのまま作文に書きました。当時は仕事もコンピューター主流の時代ではなかったのですが、今後はコンピューターの時代が来て、顧客管理から諸々と重要になってくるなどを書きました。今はその通りになっていますね。当然合格されたのではないですが、作文は良かったのかもしれない。

ただ次の面接では、全く農業の知識もないし、修学旅行の疲れもあったのであまり態度が良くなかったと思います。後から聞いた話で、反対する人もいたみたいですが、当時の組合長の神田さんがこんな奴もいていいのではという

豊下勝彦さんは1961年9月生まれの63歳。東京都新宿区で生まれ、小学校3年生の時に両親の実家がある秋田県鹿角市に移住しました。鹿角市内の小中学校を卒業後、秋田県立十和田高校（現・秋田県立鹿角高校）へ入学、高校卒業後に東急観光へ入社、その後、JAかづのへ転職しました。

JAかづのでは肥料・農薬の購買部や共済に勤務した後、畜産課に異動し

BMの人々、ポークランドグループ代表 豊下勝彦さん



ここで合格したようです。

―農協での最初の仕事は何をされましたか。

最初は支所で肥料や農薬の購買にいました。毎年の農協共済キャンペーンがあり、各農家を回って共済を獲得しなければなりません。そこで東急観光の時の営業経験を活かされたのが、6年間トップの成績を残しました。元々ある共済の商品を自分で色々と考えてアレンジして、今で言う利回りが良い商品を考え、それがどんどん売れるようになりまして。普通の人の年間の売上を一晚で稼いだこともあります。

―それは凄いですね、それで共済に異動されたのですか。

26歳の時に本所の共済に異動して自動車共済などを担当しました。28歳の時、新しい部署を作るということでまた異動となり、共済推進課という部署の課長になりました。部下は14名、そのうち2名が年下、12名が年上でした。ですがその2年後に突然畜産課へ課長

として異動となりました。30歳の4月でした。

―金融と営農では畑が全然違いますね。

全く違うので何だろうと思っただけですが、当時、全農が計画するSPF豚100万頭構想があり、JAがつの管内でミートランド（豚のと畜、解体、枝肉を製造する食肉加工センター）の建設、大型養豚団地（現在のポークランド）の新しい計画がありました。それに合わせての異動でしたが、他にも既存の牛農家や養豚農家などの立て直しなどの案件も多くなりました。

―共済やこれまでの経験を買われての異動だったのですか

後から聞いたのですが、新しいと畜場や農場の建設には地元の理解を得なければならぬ、業者とのやり取りなども多くなるということで、営業という交渉が必要と言ったことで異動になったようです。

新しい計画は八幡平養豚組合を中心に進んでいて、私は農協職員として一緒に計画を進めていました。今のポークランド専務の佐藤が農協の同じく畜産課の職員でしたが、八幡平養豚組合の事務局的な役割をしていました。ポークランド自体は1995年に会社を設立して、実は初代の社長は私ではありませんでした。

―それは初耳ですね。BMW技術との出会いもその頃ですか。

当時の八幡平養豚組合の専務だった方と農場の図面などを作っていました。これに糞尿処理のプランがあり、そのモデルとなる農場が宮崎県にありました。農産えびの（日本農産系の養豚場で現在は（株）ファームテック）というところで、糞尿と一緒に処理するスラリー方式で臭いが無いというものでした。そこへポークランド建設の理解を得るために、予定地周辺の集落の代表方を連れて行きました。

ですが、その糞尿処理方式を導入した八幡平管内や全農秋田の種豚場を含む秋田県内の農場で、処理がうまくいかない農場が出てきました。その対応にも苦労しました。さらに全農の無廃水システムというのもあったのですが、これもうまくいきませんでした。さらに紆余曲折あり、計画の段階でしたが八幡平養豚組合がポークランドをやらないうちになりました。

―色々あり過ぎて大変そうでしたね。ここに掲載できないこともあります（苦笑）、色々ありました。それも計画を進めるためにポークランドをやれる人を、管理職経験者などを中心に捜していました。それでも中々見つからないので、私が農協をやめてやることになりました。

―豊下さん自らの判断だったのですか、それとも誰かからの推薦などがありましたか。

自分でやると言いました。これまでの経緯はわかっているし、豚は飼えないけど、それ以外のことはわかるので、それで今があります。もしその判断がなかったらBMW技術もやってなかったと思います。

でも農協職員の頃に、色々回って視察する中で自然浄化法とBMW技術に出会っていました。秋田の田口さんの所で最初にBMを見た時はびっくりしました。その後、米沢郷牧場やトキワ養鶏、綾町、山形のレインボーラーなどを視察していて、自分でやるならBMで思っていました。

―ポークランドの稼働開始やBMW技術に導入について聞かせて下さい。

ポークランドと小坂クリーンセンターと同時に建設が進みました。ポークランドは私が半分強の出資、小坂クリーンセンターは8割がJA出資でした。地域の生ゴミ処理も始めました。

ポークランドは母豚1500頭×2農場の計画でもちろんBMW技術を導入しました。最初の母豚1500頭の農場の時は公庫が中々お金を貸してくれず、ようやくと貸してくれたのですが、2農場目（十和田湖高原ファーム）は貸さないと聞かれました。そこはJAがつの神田組合長や役員2人が個人抵当を出してくれて、借入れができました。

―最初の職員は何人だったのですか。

最初は5人でした。農協時代の後輩、その他にも農協からの出向、経済連、全農からの出向で来る人もいました。最初は栗石にある全農の種豚場で研修をしてもらいました。その後、人は段々と増えてきました。社長になってから1年たたないくらいで農場の稼働が始まったのですが、最初は毎日50頭くらいずつ種豚を導入、今も一緒に働いている石川、全農からの出向の人と私の3人で外から豚を受けて豚舎に入れる作業をしました。

「事業が実際に始まって、実際にやっている感覚という感触を得たのはいつ頃ですか。」

あまりそういうのはなかったです。やっていく間にも色々あり順調にきたわけではないので、ただ一所懸命やってきている感じです。（\*ポークランドグループのこれまでの取り組みや今後の目標などは、全国交流会でも話されていますので、第33回BMW技術全国交流会記録集をご覧ください）

「全国交流会では、まだやりたことが沢山あると話されていましたね。」

そうですね、まだまだやりたいことが沢山ありますけど、自分だけが発案していても面白くないですよ。もっと若い人達が発案をしていって、次につなげていくことを面白がっていかないとだめだと思います。

「若い人達に促したりしていますか。」

やらせるようにしています。もう少し見聞を広げて貰いたいと思っています。新しいアイデアや面白いことは意外と仕事と関係のないところにもあると思います。何でそう思うかと言うと、BMWと関わり始めた当初、米や野菜、果樹農家の方の考え方を聞いていると面白くて、色々ヒントを貰いました。どうしても専門的な視野だけだと行き詰まってしまうので、全く関係のないところにあるヒントを元に、色々な情報などを組み合わせつつなげていく感性が大事で、そうやって新しいことが生まれていくのだと思います。

若い人達には普段から好奇心というか、そういうアンテナを張って欲しいと伝えています。最近は車を運転する時にラジオを聴くようにしているのですが、この前のある番組で腸脳関係についての話があつて、内容的には人間の話なのですが、養豚にも通じる話でした。そのような情報番組からもヒントを得られます。関係のないことを結びつけていく大切さがあると思います。

「関係のないことを結びつけていく大切さっていいですね。」

でもそれが上手くいくことも、そうでもないこともあります。でもつなげていくことが大事で、向上心よりも好奇心だと思います。

「もっとお話しを伺いたいのですが、最後に30年を振り返って思うことはありますか。」

特にこれということはないです。無いというか私は自分を偽物だと思っています。豚を飼って言うわけでもないし、農業も養豚も未経験のままポークランドグループを作ってきましたが、自分はそれで良いと思っています。中には専門的な人が必要ですが、俯瞰で見ることが出来る人も必要だと思っています。ただ、次の世代は両方できたら良いと思っています。

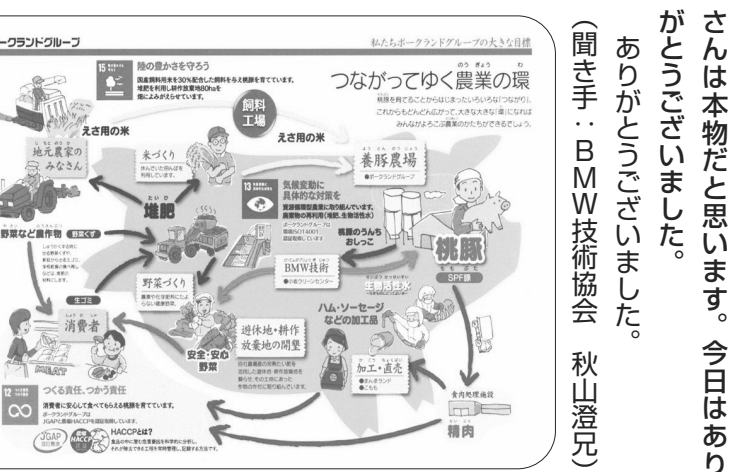
「ポークランド設立の経緯を聞かせていただきましたが、それはそれで豊下さんが本物だと思います。今日はありがとうございました。」

ありがとうございます。

ありがとうございます。

「書籍のご案内」

BMW技術協会顧問・長崎浩氏の著書で、農文協の民間農法シリーズから発刊された、「BMW糞尿・廃水処理システム」が再版されました。BMW技術を知る入門編として最適な1冊です。しばらくの間、手に入りにくい状態が続いていましたが、再版いたしました。BMW技術協会・匠集団そらのホームページのオンラインショップからご購入できます。BMW技術のバイブル、この機会に是非、お求め下さい。



「BMW技術協会30周年記念スライド」

第33回BMW技術全国交流会にて、皆さんにご覧いただいた、「BMW技術協会30周年記念スライド」のフルバージョンがご覧いただけるようになりました。左記のQRコードにアクセスしてご覧下さい。スライドではBMW技術とBMW技術協会の30年の歴史をダイジェストでお伝えしています。

民間農法シリーズ

自然の自浄作用を活かす

**BMW糞尿・廃水処理システム**

長崎浩 著

BM-shop

BMの人々、ポークランドグループ代表豊下勝彦さん

## 2月の活動

- 3日 東京都千代田区にてBMW技術協会若手幹事会の開催
- 4日 オンラインにて、BMW技術協会常任理事会と匠集団そら取締役会の開催
- 5日 茨城県茨城町の茨城BMにて配管工事
- 6日 新潟県阿賀野市の夢の谷ファームにてプラント点検
- 8日 東京都新宿区で開催されたAPLA理事会上に出席
- 10日 秋田県小坂町のポークランドグループにて、第33回BMW技術全国交流会実行委員会に出席
- 17日 フィリピン・ネグロス視察ツアーを開催、カネシゲファームにて理事会に出席
- 18日 埼玉県蕨市のパルシステム埼玉・蕨センターにてプラント点検
- 19日 茨城県茨城町の茨城BMにて生物活性水プラントの培養調整
- 20日 埼玉県熊本市の生活クラブたまごG Pセンターにてプラント定期点検
- 21日 宮城県仙台市で開催された、あいコープ共生会総会に出席
- 21日～24日 フィリピン・ルソン島北部にてプラント点検
- 25日 熊本県熊本市のグリーンコープくまもと本部にて、BMW技術学習会
- 26日 山梨県北杜市の白州郷牧場にてプラント点検
- 【6月の予定】
- 3日 大分県中津市にて耶馬溪ファーム関連の打合せ
- 4日 大分県日田市、中津市にて耶馬溪ファーム関連の打合せ
- 10日 大阪府枚方市の生活クラブ大阪・尊延寺センターにて、BMW技術学習会とプラント点検
- 大阪府枚方市の生活クラブ大阪・香里支所にてBMW技術学習会
- 13日 山形県村山市のバル・ミート山形事業所にてプラント定期点検
- 14日 佐賀県唐津市の農援隊を訪問
- 埼玉県さいたま市のパルシステム連合会・岩槻センター、パルシステム埼玉・白岡センターにてプラント定期点検
- 15日 福岡県糸島市の糸島BM農法研究会にてBMW技術学習会、柴田農場にてプラント巡回
- 18日 オンラインにてBMW技術協会若手幹事会の開催
- 19日 高知県四万十町の十和堆肥センターにてプラント定期点検
- 20日 高知県高知市土佐山の夢産地とさやま開発公社にてプラント定期点検
- 21日 高知県南国市の高知県立高知農業高校にてプラント定期点検
- 岡山県井原市の美屋食肉センター、高梁市のきじまる堆肥センターにてプラント巡回
- 24日 埼玉県蕨市のパルシステム埼玉・蕨センターにてプラント定期点検

\*BMW技術協会常任理事会、匠集団そら取締役会の開催を予定

## 薬膳の話

136

## 大蒜(ニンニク)

中国の古典医学書「黄帝内经」によると、春は、少し早めに起きて髪をほどき身体を締め付けない服装でゆっくりと大股に歩き、体を伸ばし全身を緩め、植物や自然の美しさで心を豊かにし、身体をしいたげずゆったり過ごせ、とあります。寒さで縮こまっていた身体を緩めて、適度に体を動かし、春の陽気を取り入れましょう。

暖かくなってきたら、早目に薄い布団に替え、衣類も春物の薄手の物にしますが、下半身は冷えやすいので暖かくしておきます。啓蛰の頃は、一日のうちでも寒暖の差が大きいため、風邪をひきやすくなります。風邪は寒い時より暖かくなり、かいた汗が冷えた時にかかりやすいので注意しましょう。

古くから疲労回復、強壮作用があることが知られています。紀元前3000年頃のエジプトでは、ピラミッド建設の労働者にスタミナ食としてニンニクが配給されていました。クレオパトラは「不老不死の靈薬」にしていたと言い、ツタンカーメン王の墓からも発見されています。日本には平安時代、薬として中国から入って来たようです。源氏物語には、賢女が病気の治療にニンニクを用いたため臭いので会えません、と逢瀬を断る一節もあります。

日本料理には刺激が強すぎるため、あまり広がりませんでした。第二次世界大戦後、洋食や中華料理の普及に伴って需要が増えました。

独特のにおいはアリシン、チフス菌、結核菌、大腸菌などさまざまな細菌に対する抗菌作用があります。寄生虫の駆除や食中毒の予防にも効果があります。ニラと並んで強精・強壮作用が強く、常食すると免疫力を高めます。内臓を温め、胃腸を丈夫にし、水分代謝を活発にします。また、心臓の収縮力を増して末梢血管を拡張し、高血圧や動脈硬化を予防する作用もあります。刺激が強いため、胃腸の弱い人や目の悪い人、アトピーや吹き出物のある人は控えます。帰経は「すい臓、胃、肺」です。

●風邪の引きかけに  
ニンニクとショウガそれぞれ15gを薄切りにして煎じ、少量のザラメを加えて温かいうちに飲みます。

●ニンニク醬油  
ニンニクの皮をむいて2〜3ミリ厚さにスライスして瓶に入れ、3倍量ほどの醤油を注ぐ。シンクの下などに置き約1週間て出来上がり。調理や薬味に使います。減ってきたら、ニンニクと醤油を継ぎ足します。我が家では20年物のニンニク醤油を使っています。

◎BMW技術協会事務局 佐々木エリカ  
北京中医药大学日本校薬膳養成学科卒業。中薬膳士、総合漢方研究会会員。昭和漢方生薬ハーブ研究会会員。